

1 水道事業ビジョン・経営戦略の趣旨、改訂内容

- 良質な水道サービスを継続するため、平成21（2009）年10月に「安中市地域水道ビジョン」を策定しましたが、その後、大規模な災害の頻発、人口減少などに伴う有収水量の減少など水道事業を取り巻く環境は一層厳しさを増すとともに、水道施設の老朽化や職員の高齢化などの課題を抱えています。
- こうした背景を踏まえ、国や群馬県のビジョン、本市の第3次総合計画など各種の計画と整合性を図りながら、「安中市水道事業ビジョン・経営戦略」として改訂しました。
- 主な改訂内容は以下のとおりです。
 - ㊦ 水道事業ビジョンと経営戦略を一体化
 - ㊦ 理想像を「くらし支える安全・安心を100年先へ」に
 - ㊦ DXの推進やカーボンニュートラルに向けた取組みなど4つの施策目標と実現方策を追加
 - ㊦ 老朽化が進行している施設や管路の更新など今後10年間に実施する事業の計画を想定
 - ㊦ 上記の事業を実施した場合と老朽化が進行する坂本浄水場の更新を含めた場合の投資・財政計画を検討



2 ビジョンの計画期間

令和7（2025）年度～令和16（2034）年度

3 本市水道事業における課題

- 本市水道事業における課題を「安全」「強靱」「持続」の3つの視点で整理しました。
- 「安全」面での課題としては、気候変動に伴う表流水水源の水質・水量の変化や隧道湧水の水量減少などへの対応や、PFOS及びPF0A等の化学物質やカビ臭物質に対する管理体制及び監視の強化などが挙げられます。
- 「強靱」面での課題としては、川久保配水池や坂本浄水場をはじめとする施設の老朽化や、施設・管路の耐震性の不足が挙げられます。
- 配水池は1池が耐震基準を満たしており、第3次安中市総合計画では、「配水池の耐震化率」を令和4（2022）年度の1.79%から令和9（2027）年度には6.10%とすることを目標としています。
- 管路の耐震管率は、令和4（2022）年度時点で4.5%であり、同規模事業体平均値の約1/3となっています。また、基幹管路の耐震管率は0.0%であり同規模事業体平均値の25.2%を大きく下回っています。
- 「持続」面での課題としては、長期的にみて給水収益の増加が見込めず、さらには物価高騰による維持管理費用が増大している状況で、多額の費用を要する水道施設の老朽化対策及び耐震化を進めていかなければならないことが挙げられます。
- また、経験豊富なベテラン職員の退職や人事異動によって、ここ数年で職員の水道業務平均経験年数は急激に短期化していることから、水道事業を安定して経営するための人材確保・育成も重要な課題として挙げられます。

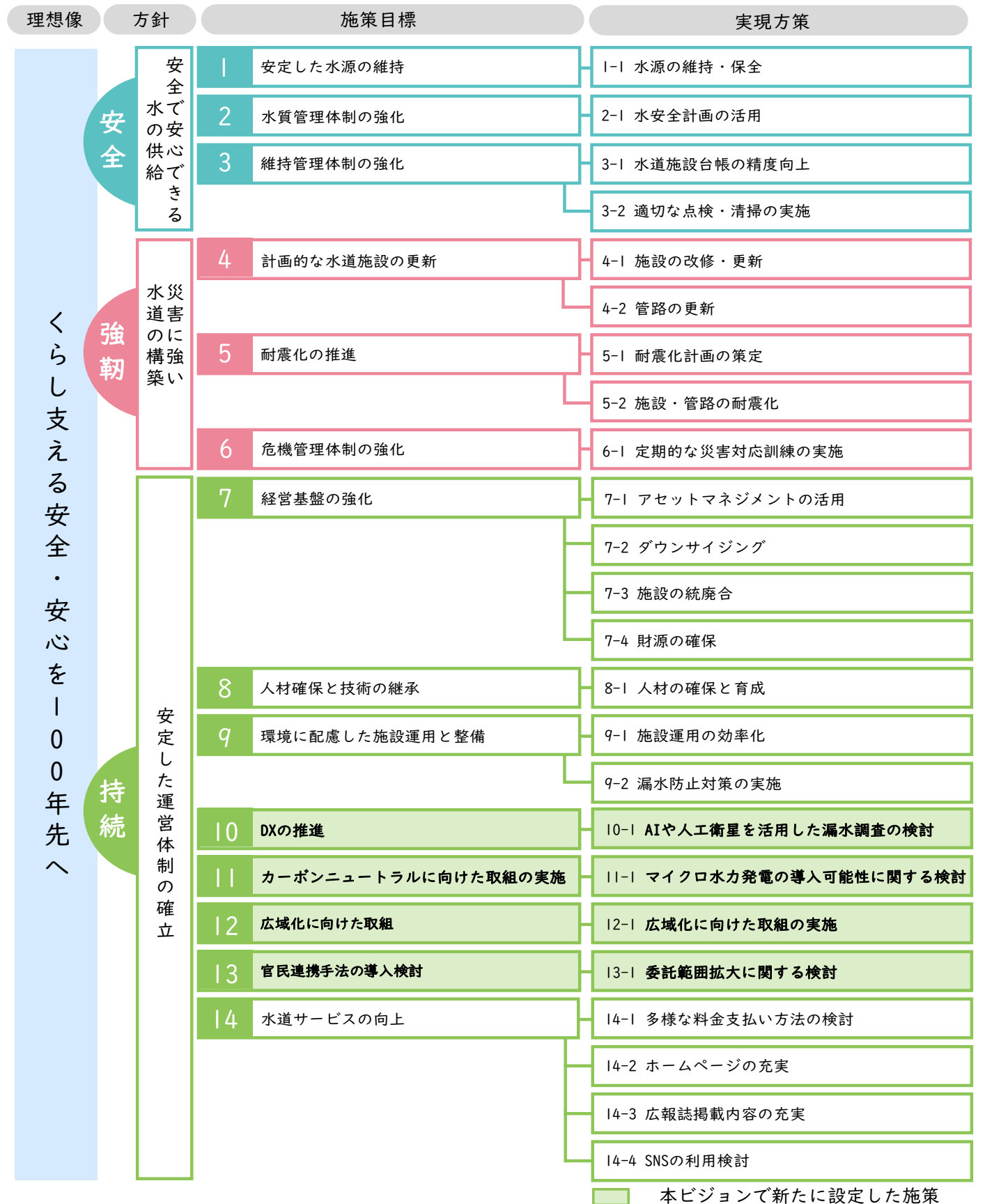


配水池の簡易耐震診断による耐震性

分類	施設名称	完成年	経過年数	簡易耐震診断による耐震性
配水池	榎木配水池	昭和44(1969)年 ⇒令和4(2022)年更新	3年	更新に伴い耐震化済み
	川久保配水池	昭和43(1968)年	57年	低い
	新堀配水池	昭和33(1958)年	67年	低い
	人見配水池	昭和52(1977)年	48年	低い
	湯沢配水池	昭和52(1977)年	48年	低い
	雨乞配水池	昭和45(1970)年	55年	低い

これらの課題を踏まえ、本市水道事業の理想像である「くらし支える安全・安心を100年先へ」の実現に向けた基本方針、施策目標及び具体的施策を定めました。

4 本市水道事業の施策体系



5 経営戦略の基本方針

- 本市では、平成31（2019）年1月に経営の基本となる「安中市水道事業経営戦略」を策定しましたが、将来にわたって安定的に事業を継続していくため、経営戦略を改定します。
- 経営戦略では、投資試算と財源試算について効率化・経営健全化の取組を反映させた検討を行い、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上を図っていきます。



6 経営戦略の計画期間

令和7（2025）年度～令和16（2034）年度

7 今後10年間の主要な事業

- 主要な事業として、以下の事業を実施します。
 - ㊦ 川久保配水池や二軒在家配水池などの老朽化が進行している施設の更新
 - ㊦ 今後の水需要の増加に対応するための人見副配水池の築造及び送水管の整備
 - ㊦ 今後予想される災害リスクに備え、久保井戸浄水場の浄水池等の浸水対策と耐震化
 - ㊦ 漏水が多い管路、耐震性の低い管路、経年化によって不具合が生じている管路及び口径が需要に合致していない管路の更新

	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
川久保配水池更新事業	←			→						
人見副配水池築造事業							←			→
二軒在家配水池更新事業								←		→
人見送水管更新事業				←	→					
久保井戸浄水場改修事業			←	→		←	→			←
坂本浄水場再構築事業				←	→	→	→	→	→	→

坂本浄水場再構築事業について

本市水道事業における基幹浄水場である坂本浄水場は、S33年の整備から66年が経過しており、施設の老朽化が進行しています。本ビジョンの計画期間中の事業実施を目標として、今後、坂本浄水場の再構築に係る方針を検討します。

8 投資・財政計画（収支計画）

<投資試算>

- ケース1として、上記の主要事業に加え、アセットマネジメントを活用し、施設整備からの経過年数に基づいて適正な事業費を見込みます。10年間の合計で約115.9億円の事業費となります。
- ケース2（参考ケース）として、計画期間内に坂本浄水場再構築事業を行った場合の投資・財政計画についても検討を行います。10年間の合計で約175.6億円の事業費となります。

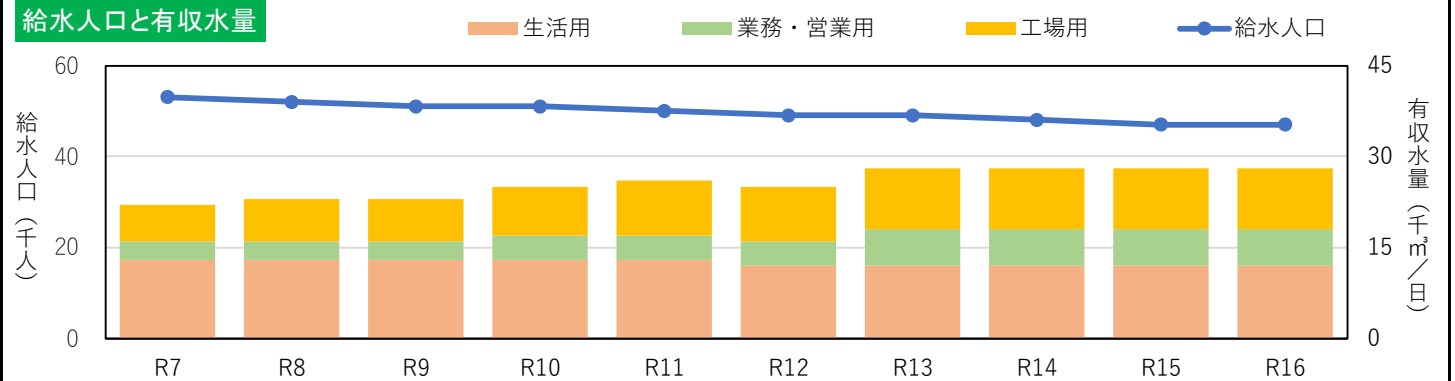
<財源試算>

- 計画期間中の料金改定を見込まず、実績値一定と仮定します。
- 更新事業費の75%を上限とするなどの条件に基づいて、企業債を借入れます。

<収支計画>

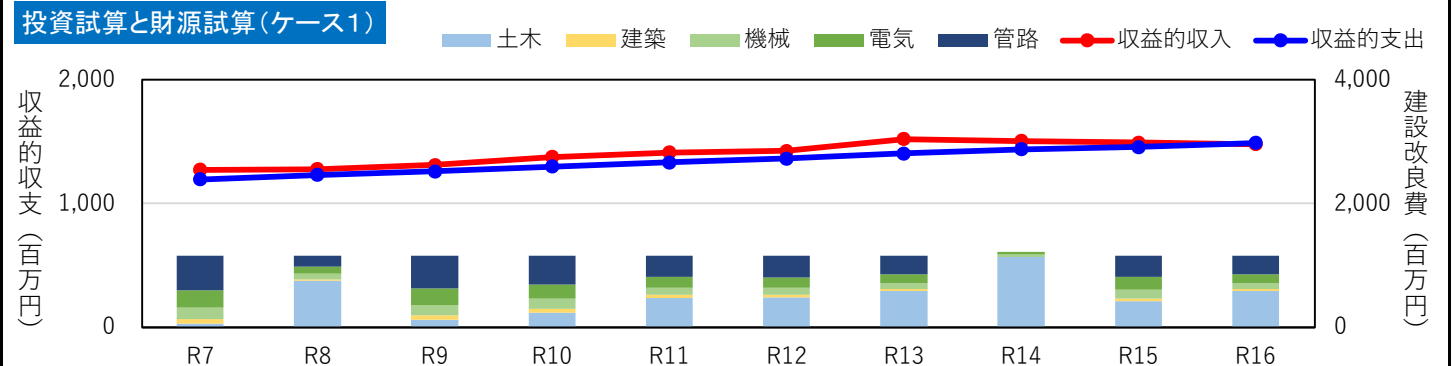
- ケース1では、計画期間内において健全経営を維持できる水準となりました。
- ケース2では、坂本浄水場再構築事業が開始するR14から急激に経営状況が悪化することが分かりました。
- 今後増大する更新需要に対して、将来世代に負担を背負わせないためにも、適切な時期に適切な水準での料金改定が必要なが示唆されました。

給水人口と有収水量



	R7推計	R8推計	R9推計	R10推計	R11推計	R12推計	R13推計	R14推計	R15推計	R16推計	備考
給水人口（人）	52,649	51,986	51,328	50,670	50,011	49,347	48,678	48,004	47,335	46,664	財政収支検討では低位ケースを採用
有収水量（m³/日）	22,941	23,026	23,635	25,003	25,700	25,952	27,793	27,543	27,294	27,045	

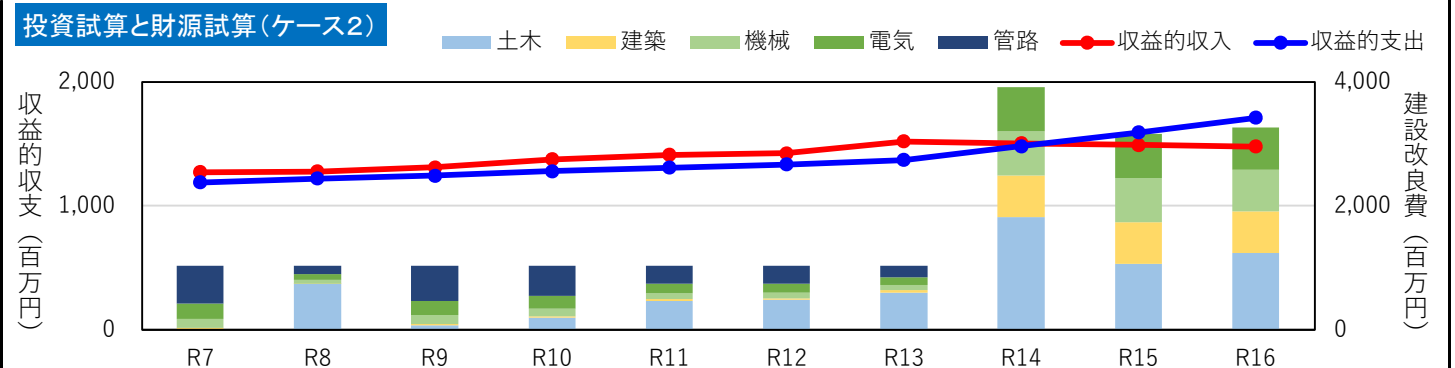
投資試算と財源試算（ケース1）



	R7推計	R8推計	R9推計	R10推計	R11推計	R12推計	R13推計	R14推計	R15推計	R16推計	備考
収益的収入（百万円）	1,271	1,275	1,309	1,375	1,409	1,422	1,519	1,503	1,491	1,477	R16時点の資金残高 4.7億円
収益的支出（百万円）	1,195	1,229	1,257	1,295	1,330	1,362	1,402	1,435	1,454	1,489	
収支差引（百万円）	76	46	52	80	79	60	117	68	37	▲12	
建設改良費（百万円）	1,153	1,153	1,153	1,153	1,153	1,153	1,153	1,210	1,153	1,153	

参考ケース：坂本浄水場再構築事業を含む更新事業費

投資試算と財源試算（ケース2）



	R7推計	R8推計	R9推計	R10推計	R11推計	R12推計	R13推計	R14推計	R15推計	R16推計	備考
収益的収入（百万円）	1,271	1,275	1,309	1,375	1,409	1,422	1,519	1,503	1,491	1,477	R16時点の資金残高 △2.1億円 (資金ショート)
収益的支出（百万円）	1,191	1,220	1,243	1,277	1,306	1,333	1,368	1,480	1,591	1,712	
収支差引（百万円）	80	55	66	98	103	89	151	23	▲100	▲235	
建設改良費（百万円）	1,034	1,034	1,034	1,034	1,034	1,034	1,034	3,909	3,159	3,257	